

全 員 協 議 会 会 議 録

開 催 日 時	令和6年12月23日(月) 15時 10分 ~ 16時 00分
場 所	第3常任委員会室
協 議 事 項	1. GW2050 PROJECTS の概要説明について
出 席 議 員 (欠席議員)	25名(欠席議員なし)
当局出席者	企画部長、企画部次長、企画政策技幹、企画政策主幹、企画政策係担当主査 (敬称略) GW2050 PROJECTS 理事、GW2050 PROJECTS 事務局(4名)
議会事務局 出席者	仲村局長、當山次長、平田議事担当主幹、又吉主事
	<p>○呉屋等 議長 GW2050PROJECTS に関して推進協議会による説明、質疑応答の場を設けるため全員協議会の開催に至った。</p> <p>1. GW2050 PROJECTS の概要説明について</p> <p>≪GW2050 PROJECTS 理事、事務局より追加案件について説明を行う。≫</p> <p>○プリティ宮城ちえ 議員 このアイデアは国が考えたのか。また、本市はこれから第五次宜野湾市総合計画をもとに計画が決まるが、一方で、住民が知らないままGWがどんどん先に進むのではないかとすることに不安を感じる。そして、県の新沖縄21世紀ビジョンに基づいていると説明があったが、これほど壮大な計画になぜ県が参加していないのかとても不思議。他県ではこのような主要なプロジェクトに県を除いて民間主導で行った事例があるのか、P9の米国文化との融合とは基地との共存という意味か、また、ボストンコンサルティンググループに委託を行い、4カ月でランドデザインを作成することだが、このような大きな計画を短期間で決めることに不安があるため説明を求める。</p> <p>○GW2050 PROJECTS 理事 基本的なところはこれまでの延長線でない形で、なおかつ、柔軟性と大胆性とスピード感を持って作りたい。それにはやはり民間主導かと。それぞれの跡地の開発主体というのは、あくまでも地元の地権者、行政、市民であり、それをベースにしている。そして、それぞれのマスタープランをだんだんと作り上げてきており、推進協議会は基本的に皆さんが作成しているマスタープランをベースに、例をあげると、軍港、キャンプ・キンザー、普天間基地の跡地で同じ箱モノを作ることになるのもつたいないと感じるため、普天間は普天間らしい強さを見つけ、一緒に併せて作り上げる。キャンプ・キンザーはキャンプ・キンザーで同様に行う。那覇空港から普天間まで宇宙から見ると一体的だが、それぞれ非常に特徴がある跡地、都市になっている、というのを、2050年代には実現した方がいいのではないかといた所である。大きな計画であるが、県は入らないのかということだ</p>

が、我々は出来上がったものを県に提言を行う。提言する内容を提言前に県が一緒となって作っているのは少し変だということと、経済界目線で大胆な発想をぜひ入れたい。国際競争力ある産業、ウェルビーイング、幸福感を感じるような暮らし創出といったアイデアを我々は提供したい。それを提案する形で、県の振興審議会にも提出する。そこでぜひ揉んでいただき、精査していただきたい。そのうえで、計画として取り上げるのであれば、その計画の実行主体は当然県でないといけないといった考え方で進めている。

経済団体を中心に協議会を立ち上げ議論を行い、その結果を、国や県の沖縄振興審議会にあげる予定。調査にあたっては国の補助金を活用し行う予定。

○GW2050 PROJECTS 事務局 先に決まるのが怖いというご質問があったが、我々は何ら普天間基地の跡地利用を私たちが決めるというスタンスは全く持っていない。繰り返し説明しているが、沖縄県を俯瞰的に見たときに、どういった機能が普天間の跡地にあると、さらにいい成長ができるのかといったところを、経済界の視点で提言させていただきたい。私たちの提言先はもちろん宜野湾市も含まれる。こういった私たちの調査や議論した内容を踏まえ住民の皆様と土地づくりを、ぜひご議論をさらに活発化させていただきたいということが私たちの考えである。

また、壮大な計画を作るうえで、募集期間が短かったのではないかとのご質問に対しては、この2027年の第6次振興計画の後半5年の見直しにしっかりと意見を出していくには、あと2年間で経済界としての考えを取りまとめしていく必要がある。そういった中では、私たちは10月に募集をし、丁寧な説明会を行った。その中で日本を代表する、そして沖縄を代表するシンクタンク20数社がまず関心を持っていただき、その中で実際にご提案いただいたのは3チーム9社、ボストンコンサルティンググループ以外にも、日本を代表するシンクタンクや、県内のシンクタンクが9社も出ていただいた。その中で一番大きなビジョンを描くのに最適なパートナーということで、今回、ボストンコンサルティンググループを選んだ。確かに、期間は1か月であったが、十分に様々な議論や提案をいただいたものだと考えている。

また、米国文化との融合をといるところであるが、これは基地をどうこうというものではなく、沖縄の歴史の中で、私たちはチャンプルー文化、様々な文化と融合するといったところが沖縄らしさの一つでもあるのではと考え、人づくりの一つの考え方として記載させていただいている。米軍とどうこうするというものではない。

○山城康弘 議員 15キロの交通機能、これが本員が一番重要だと思っている。4つの機能をしっかり明確化したとしても、現在、車社会であるため、車でしか移動できない状況に頼れば、しっかりとした機能を果たせなくなる状況が考えられる。2050年というものがあるため、交通機能の整備についてはある程度早めに取り組まなければ、非常に厳しい状況かと思う。交通機能に対しての皆さんのご意見を伺う。

○GW2050 PROJECTS 理事 資料には例示的に「富裕層などに対応可能な～」と記載しているが、基本的には玄関口的那覇空港を起点とした具体的な交通機能をこれから議論する。ワーキンググループを現在作っており、この一年半をかけて航空機能、交通機能に関して具体的に議論を行い、この交通体系が一番いいというのをこれから作っていく。そして、それを実際に実現するためには、こういう制度、助成、対応が必要だ、という部分をこれから作り上げてお示ししたい。

○山城康弘 議員 アメリカの軍用地跡地利用で、富裕層を誘致するため、小型ジェット機が離着陸できるスペースを確保するまちづくりがある。例えば、那覇空港に小型ジェット機が離着陸できる状況を作っていくのか、あるいは、例えば宜野湾市にお願いをして、小型ジェット機が離着陸するスペースを普天間に作っていくのか。全世界、富裕層はみんな小型ジェット機で移動している。そういったインフラ整備を含めて進めていただきたい。人が集まる仕組み、交通機能の集まる仕組みを作れば必ず経済は発展すると全世界で立証されている。時間軸もしっかり見えるようにしていただければ、我々もこうしようと取り組むためよろしく願います。

○GW2050 PROJECTS 理事 普天間に小型ジェット機という部分は、地元の意向があるので、我々の検討には経済圏だけでなく、那覇市、浦添市、宜野湾市の行政も入っている。ワーキンググループや部会等の形で実際にたたき台を作る段階、それから最終的にこの案を、協議会として了解という部分も理事として、那覇市、浦添市、宜野湾市が入っている。そのため、そういったことをしっかり検討し、一番普天間にとってどのような交通体系がいいか結論を導き出し、全員で作成していきたい。

○上地安之 議員 非常に夢を持っている。那覇空港から普天間に至る西海岸地域を一体整備し、しかも民間主導でこれからの新たな沖縄をつくるという構想。振興計画にどう盛り込むかが非常に難しいところだが、時間軸に外れないよう是非とも頑張ってください。しかし、これは沖縄振興計画に盛り込まないと絵に描いた餅にしかならない。新沖縄 21 世紀ビジョン、2022 年に第 6 次がスタートし、5 年おきで前期後期の計画を作るため、2027 年が後期に入っていく。お願い申し上げたいのは、これまでの事業ではなく、民間の感覚で画期的な提案を計画に盛り込んで特別措置法の支援を受けられるようにしていただきたい。非常にタイトだが大丈夫か。

○GW2050 PROJECTS 理事 我々も重々承知しており、企業会 7 社から出向者を出して対応している。我々は 1 年半後、グランドデザイン、それからその後の 4 つのエリアの開発の考え方、基本的にはこれを国の振興審議会、県の振興審議会、県知事に提出する。ちょうど我々が出すタイミングとして、第 6 次振興計画の後半の 5 年の時期にあたるため、そこで揉んでいただいて国家計画として取り上げていただきたいと考えている。

○上地安之 議員 振興計画に盛り込まないことにはまったく前に進まないた

め、一つの上位計画に盛り込むようお願いしたい。それから、宜野湾市も新沖縄 21 世紀ビジョンにおいて、宜野湾市から読谷村までオーシャンフロント構想に指定をされている。あるいは世界水準のオーシャンフロントだという位置づけに、振興計画の中ではうたわれている、そのとおり連結するように、それを忘れないようお願いしたい。

○**我如古盛英 議員** 普天間飛行場の返還に関しては、日本国内はもとより世界からも注目されている。そこを経済界の皆さんが経済界の視点で振興を考えることについてはとても賛成である。しかし、GW2050 推進協議会の中に那覇市、浦添市、宜野湾市の地方公共団体が入っていることに少し違和感がある。地方自治体となると、首長がどのような役割で推進協議会に入るか、ただ負担金だけを準備し、あるいは関係しないということではいけないと思う。各市町村で、軍用地跡地の利用計画が既にできており、地主も抱えている。地主の皆さんもどのように考えているのかもこれからだと思う。それから、公共施設、道路拡張等、様々な公共施設ができる場合は各市の担当が入ってくると思うため、純粋に経済界の視点できれいにまとめ、国、県、あるいは市に提言を行っていただいた方が、まだわかりやすいと思うが、なぜ地方公共団体がはいるのか。

○**GW2050 PROJECTS 理事** おっしゃるように大胆かつ柔軟な発想でもって、地域の産業、暮らし、街づくりを経済界の視点で検討する。ただ、我々は産業だけを作るのではなく、住んでいる人たちの暮らしづくり、それから人づくり、人材が育たないと持続的な経済の成長もできないということもあり、それから、街づくり、人づくり、暮らしづくり、これを考えた際に、どうしても行政の目があるため、行政の意見をいただき、我々もまた活かしていく。そのためには那覇市、浦添市、宜野湾市も我々と同じレベルで、同じ審議の中に加わり進めていく。地元との綿密な連携が、やはり必要ではないかと考え作っている。ぜひ見守っていただきたい。

○**宮城克 議員** 皆さんが議会に求めているものは何か伺う。

○**GW2050 PROJECTS 理事** 議員の皆さんにこちらから要望するという事ではなく、我々が今考えている部分、描いている構想、これから取り組み結論まで持っていきたいという動きの部分、GW2050 の内容や、先程説明したように協議会の中に現時点で県が入っていない理由、それから経済界を主体として進めたい理由、さらに開発の主体というのは地元の地権者、市民、行政であり、そこを踏まえたうえで、我々は取り組んでいくという事をご理解いただくためにお時間をいただいた。

○**企画部長** もし質問できなかった箇所を、企画政策課に文書でいただければ、事務局と相談し後日回答させていただくので、お寄せいただければと思う。また、今後議論が進んでいく中でお時間頂く場をセッティングさせていただくかと考えているため、引き続きよろしく願います。

2. 市道喜友名 23 号道路整備工事の専決事項に係る事前説明について

《建設部長、道路整備課長より追加案件について説明を行う。》

○上里広幸 議員 説明の中で4工区は間に合ったと説明があったが、間に合ったとはどういう意味か。

○建設部長 工期内にとりにあえず終えて、変更することが無かったということご理解いただきたい。

○上里広幸 議員 工期の変更がなかったということか。

○建設部長 ということでご理解いただきたい。

○上里広幸 議員 完了検査を受けたなどという意味ではないということでしょうか。

○建設部長 その通りである。

○嶺井拓磨 議員 前回の説明では、供用開始時期が年度内という話だったが、早くなる可能性はどれくらいあるか伺う。

○建設部長 予想として2月中旬には現場を完了していると想定している。その後、米軍関連のセキュリティ上の検査があるということで、その時期が工事を完了しないとその日を定められず、米軍との調整日程がはっきり申し上げられない。3月16日に式典があるため、その式典には間に合わず努力をしないといけない。建設部では1日も早い供用開始を目指し取り組んでいこうと考えている

○平安座武志 議員 第4工区の増額変更について、第4工区の雨水管の工事は令和5年度の繰越予算だったと認識しているが、繰越予算の増額補正はあるのか。

○道路整備課道路二係長 おっしゃるように繰越予算で発注させていただいた。増額分に関しては、入札残額と、防衛局と調整も行ったが新たに令和6年度に補正で組ませていただいた予算があるが、そこから一部…

○平安座武志 議員 それはボックスカルバートと別の物ではないのか。

○道路整備課道路二係長 足りなくなった部分を、令和6年度の補正予算をつけたものからくっつけて増額という形で処理させてもらっている。

○建設部長 防衛補助に限らず、繰越予算と、当該年度の予算を合わせて契約することが可能ということになっている。要するに沖縄振興予算がもともと目減りし、ほとんど使わなかったが、ただ返すわけにはいかないため、繰越予算として持ち、次年度の予算と合わせて契約するという事が、補償についても、工事についてもできる制度という所になっており、実際には追加分で追いやってすることも可能ではあるが、今回、この4工区においての工事内容の変更増ということで、防衛局も問題ないと、通常行っている制度であるためこれを確認し、増額している。

○平安座武志 議員 繰越予算の増額ができるという資料か何かをいただきたい。

○建設部長 提出する。

以上